ヒトパピローマウイルス（HPV）とHPVワクチン

声なき感染症を知る ◆88◆

県感染症情報センター

がんや感染症の原因 失われた接種の機会

ウイルスは感染症のみならず癌（がん）の原因になるものもあります。今回は若い女性で増加している子宮頸（けい）がんの原因である「ヒトパピローマウイルス（HPV）」と、同ウイルスの感染を予防する「HPVワクチン」についてお話しします。

▽子宮頸がんや性感染症を引き起こす

ヒトパピローマウイルス（Human papillomavirus＝HPV）は、皮膚病や性感染症を引き起こすウイルスです。少なくとも100種類以上あり、そのうちのいくつかの種類は、子宮頸（けい）がんをはじめ肛門がん、膣がんなどのがんや、性感染症の尖圭コンジローマ（性器やその周囲にできるいぼ）などの病気の発生に関与しています。

▽性交渉で感染

HPVの主な感染経路は、感染した人との性交渉であり、性交渉を経験するとほとんどの人がHPVに感染するとされています。HPVは粘膜および皮膚の濃厚な接触で感染するため、コンドームはHPVの感染予防に有効ですが、感染を完全に防ぐことはできません。

▽若い世代で増加する子宮頸がん

子宮頸がんの96％はHPVの感染が原因です。ウイルスに感染してから子宮頸がんに進行するまでには数年～数十年かかると考えられています。子宮頸がんは年間約1万人が罹患し、約3千人が死亡しており、患者数、死亡者数ともに近年増加傾向にあります。特に20歳代～30歳代の女性で子宮頸がんになる人が増加しています。

▽検診で早期発見を

HPVに感染した細胞が前がん病変となりますが、前がん病変であっても一般的に症状が出現しません。そのため、検診を受診しないと気づかれないまま前がん病変から子宮頸がんに進行することがあり、前がん病変の段階で早期に発見されれば比較的治療しやすいがんですが、進行した場合には治療が難しいです。早期発見のためには「子宮頸がん検診」を定期的に受けることが重要です。

▽がん予防につながるHPVワクチン

また子宮頸がんは、「HPVワクチン」というワクチンで予防することが可能です。HPVワクチンはHPVの感染や子宮頸がんの前がん病変の予防に有効とされています。

HPVは性交渉により感染するため、HPVワクチンは性活動を開始する前に接種する必要があります。HPVワクチンは小学6年生～高校1年生相当の女子を対象に、2013年4月から定期接種になっています。

▽日本ではワクチン接種率ほぼゼロ

しかし、接種後に体調不良を訴える声が相次ぎ、メディアでも大きく取り上げられ、同年6月には「積極的勧奨」を差し控える、つまり積極的には接種を勧めないが、希望すれば接種可能、という状態になりました。

これにより、対象者にワクチン接種のお知らせが個別に届かなくなったため、自分が対象者であることも知らずに、無料で接種できる機会を逃し、接種率は70％から1％未満まで激減してしまいました。

その後、HPVワクチンと体調不良の因果関係はないという研究結果が出ましたが、接種率は低く、いまだに1％未満となっています。

厚生労働省は昨年10月と今年1月に、小学6年生～高校1年生の女子は定期接種であることを対象者に個別に知らせるよう、自治体に通知を出しています。

▽一部の外国では男性にも接種

なお、男性においてHPVは陰茎がんや肛門がんなどの原因となるので、一部の外国では、男性もHPVワクチンの接種対象としています。

▽ワクチンと検診で子宮頸がんが激減

ある研究では、日本において無料で受けられる定期接種の対象年齢を過ぎた2000～2003年度生まれの女性では、防げたはずの子宮頸がん患者が計1万7千人、死者が計4千人発生すると予測されています。

HPVは性交渉で感染しますが、コンドームでは感染を完全に防ぐことはできません。子宮頸がんを減らすためにはワクチンを接種してHPV感染を減らし、検診により前がん病変の段階での早期発見と治療が有効です。その体制が整備されている国では、子宮頸がんの患者数、死者数は激減しています。

検診やワクチン接種の詳細についてはお住まいの自治体に問い合わせてください。

HPVワクチン定期接種の対象者とその保護者に向け、HPVワクチンと子宮頸がんに関する情報を提供する厚生労働省のリーフレット（表紙）。リーフレット（概要版／詳細版）は厚労省のホームページでダウンロードできる